



巻頭言

未知なる人間の魅力

堀 智 晴

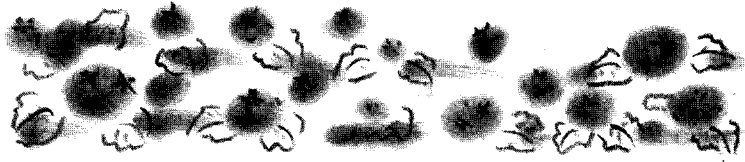
「はいね」「はい」

「いてね、いてね、いてね、いてね、いてね。もっと幸せになるから、Hさん見ていてください」と、Mさんが筆談で書きました。

「はい、はい、はい、はい、はい。見せてください」と、筆談の介助をしていたHさんは応えました。

これは、Hさんが末期癌のためにやせ細ってきたのを見て、Mさんが「生きていてね」とくり返し書いたので、Hさんも「はい、はい」と返事されているところです。

Hさんは、息子さんが自閉症と診断されたのですが、その息子さんを育てる中で、手を添えれば息子さんが字を書く、自分の思っていることを書くことに気づき、筆談でやりとりをするようになったそうです。そしてこれまでほとんど話すことがなかつ



た、自閉症と診断されている人、知的障がいと診断されている人に、筆談介助をするようになったのです。Mさんも自閉症と診断されています。

Hさんは、残念ですが、二〇〇九年の一月に亡くなられました。Hさんをしのぶ会で、Mさんのお母さんが挨拶の中で、冒頭の筆談の内容を紹介されました。

### 「少しせっかちです」

Mさんのお母さんは、Mさんが初めて筆談によって書いた、二十年来胸に刻んできた心の叫びを受け止めた時、重い衝撃を受け、涙が止まらなかつたと語られました。

Mさんは「思いのたけを書いて安らかになった、今は幸せです」と書きました。それを読んでお母さんも安心されたそうです。

私はMさんが筆談介助を受けて、自分の思っていることをノートに書きつづるのを目の当たりに見ました。介助による筆談は、信用できないという人もいますが、私はこの目で確かめたので信頼できます。筆談は、介助者が自分の手を、書く人の手の上にそっと添え、書く人が書くこととするのを助けます。手を添えているので、書く人の動きを感じとれるのです。文字盤を指すのを介助するのと似ています。介助者が書く人にとって信頼できる人ではない場合、筆談はうまくできません。

私とMさんは、Mさんが中学生の時に会いました。もう、二十年間のつき合いになります。Mさんが筆談をしている時に私は「堀先生をどう思いますか」と聞きました



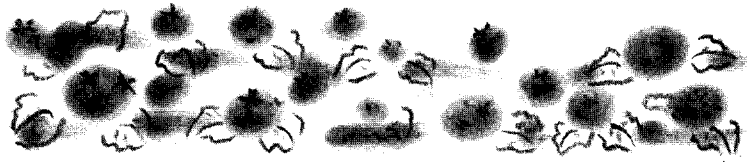
た。すると、返事は「すこしせっかちです」と返ってきました。「うーん、そうだなあ」と思います。私はかなりせっかちなのですが、「少しせっかちです」と表現したのは、Mさんのやさしい配慮だと思います。

### 見かけで判断しないで

私は、この三十年余り、保育所、幼稚園、学校の実践を拝見し、実践者と共同研究をしてきました。保育、教育の現場は、実に刺激に富んでいて、学ぶことがあふれています。しかし、不思議に思うことも多くあります。その一つは、目の前の子どもを自分の目で見ようとしない、自分なりに理解を深めようとしない保育士さんや先生方が多くいるということです。

また、障がいのある子どもの場合、マイナス・イメージで見るのが当然と考えられていることがあり、悲しくなります。歩けない、話せない、じっとしていない、集中できない、コミュニケーションがとれない、理解できない……などなど、ないないづくしです。そのように理解をする人は、まだ、見かけだけで判断しているのでしょう。そして、そのような貧しい理解から次に出てくるのは、貧しい型にはまった指導方法（訓練）ということになっていく場合が多いのです。

世界に一人しかない目の前の子、私は〈この子〉と表現しているのですが、〈この子〉の思いや生き方を感じとり、理解をしようとすれば、保育や教育という営みは



もつと楽しくやりがいのあるものになると思います。また〈この子〉を理解しようとしてゐる〈この私〉をふり返る必要もあります。それは自分を豊かにする契機にもなります。

### 未知なる存在、〈この子〉の魅力

たとえば、とも君という男の子がいるとします。そのとも君はこれまでどのような生活をして生きてきたのか、今、なぜそうしているのか、何を感じ、何を考えているのか、どんなことを夢見ているのか、友達や先生をどう見ているのか、世の中の出来事をどう見ているのか、これからのような人生を生きたいと思っているのか、とも君の秘密は何か……と考えていくと、私が知っているとも君の世界は、ほんの一部であることがわかってきます。私のとも君を見る目が狭い、一面的であることにも気づかれます。とも君についてわからない部分の多いことに気づくと、未知なるとも君について、好奇心がわいてきます。そうすると、とも君が魅力的な存在として見えてくるのではないのでしょうか。

子どもは未来を生きる存在です。ですから子どもはいつそう未知なる存在だと言ってもいいでしょう。謎の存在だと言ってもいいでしょう。そのほうが子ども本来の可能性も見えてきます。